

## や へ 矢部川総合水系 環境整備事業



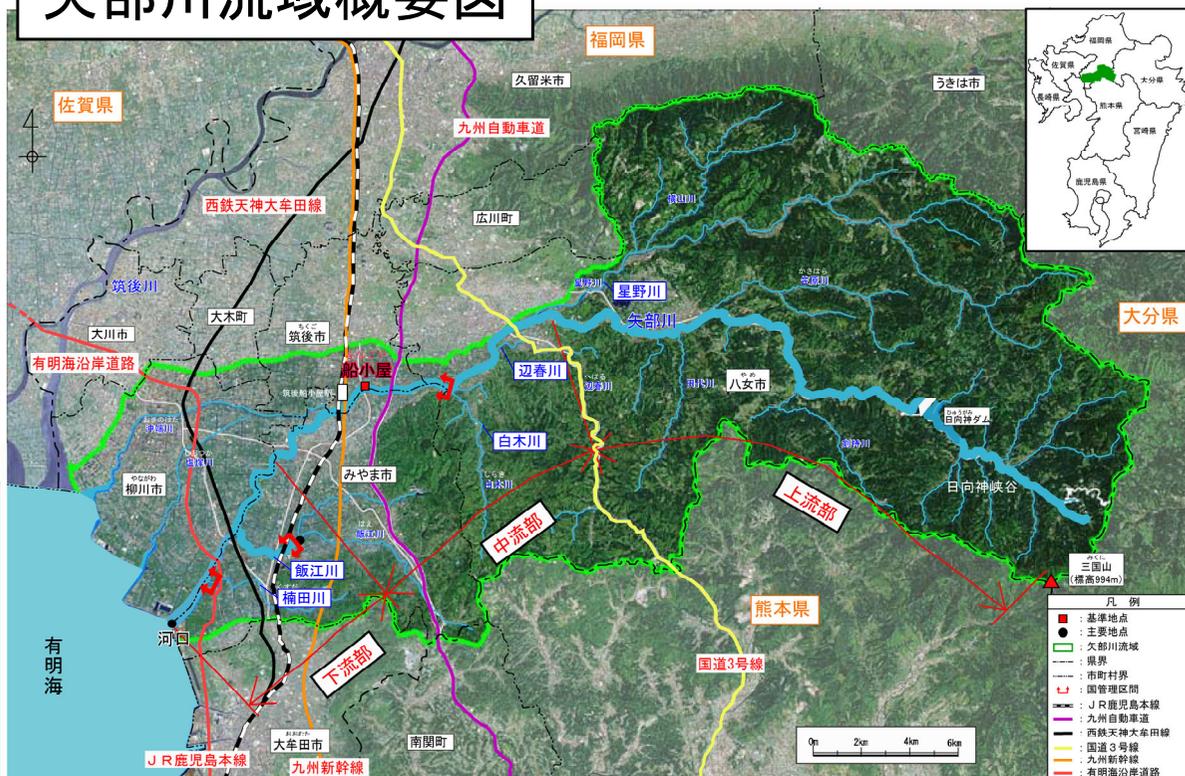
- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

# 1. 矢部川流域の概要

## 1.1. 流域の概要、河川環境のとりまく状況

流域面積 : 647km<sup>2</sup>      流域内人口 : 約16万人 (第10回河川概況調査 (調査基準年平成22年))  
幹川流路延長 : 61km      流域内市町村 : 5市2町 (筑後市、みやま市、柳川市、八女市、大牟田市、大木町、南関町)

### 矢部川流域概要図



#### ■矢部川流域、各区間の特徴

- ・矢部川の源は福岡、大分、熊本の3県にまたがる三国山 (標高994m) に発し、日向神峡谷を流下している。
- ・矢部川流域は豊かな自然環境に恵まれ、流域内の広い範囲が自然公園に指定されている。河川水は穀倉地帯である筑後平野の農業用水や発電用水に利用され、筑後地方の産業活動を支えている。

#### <上流部 (花宗堰～源流) >

- ・急峻な山地となっており、川床は礫・大礫で形成され河畔林と瀬淵が連続する美しい溪流環境を呈し、水域にはカジカやサワガニ等が生息している。
- ・日向神峡の景勝地や日向神ダム、国の天然記念物に指定されている黒木大フジを目当てに、例年多くの観光客が訪れている。

#### <中流部 (瀬高堰～花宗堰) >

- ・川床は礫・砂で形成され、水域にはアユやゲンジボタル等が生息している。
- ・支川星野川、辺春川、白木川を合わせながら、扇状地に広がる田園地帯や点在する市街地を貫流している。
- ・船小屋地区では、中ノ島公園を中心として、子供の水遊びの場や遠足・写生大会、温泉地を訪れる人々の散策等に利用されており、クスノキ林やその周辺のゲンジボタル発生地は国の天然記念物に指定されている。

#### <下流部 (河口～瀬高堰) >

- ・沖端川で分派した後、本流は下流部で飯江川、楠田川と合流し、有明海に注いでいる。平野や田園地帯を緩やかに蛇行しながら有明海へと注ぎ、国内最大の干満差による影響を受け、汽水域や河口に干潟・ヨシ群落が形成している。
- ・クリークの水を使った農業や、有明海のノリ養殖をはじめとする漁業の町として、多くの漁船が矢部川を行き来している。

# 1. 矢部川流域の概要

## 1.2. 矢部川水系の河川環境の整備と保全に関する目標

- ◆ 河川環境については、地域の人々と矢部川の関わりを考慮しつつ、良好な河川景観の維持・形成を図るとともに、重要種を含む多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を保全・創出し、次世代に引き継ぐこととしている。
- ◆ 水質については、関係機関や地域住民等との連携を図りながら、現状の良好な水質の保全とさらなる水質の向上を目指すこととしている。
- ◆ 景観については、船小屋地区に見られる河畔林や瀬・淵、砂礫河原等からなる自然景観等の維持・形成に努めるとともに、沿川の土地利用と調和した良好な水辺景観の維持・形成に努めることとしている。
- ◆ 人と河川の豊かなふれあいの場の確保については、今後も市民や観光客の憩いの場としてのニーズや周辺状況の変化等を踏まえ、安全性及び利便性に配慮した河川整備及び維持を目指すこととしている。

※矢部川水系河川整備計画(変更)【平成28年11月】抜粋

# 2. 事業の必要性 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]

## 2.1. 地域の開発状況

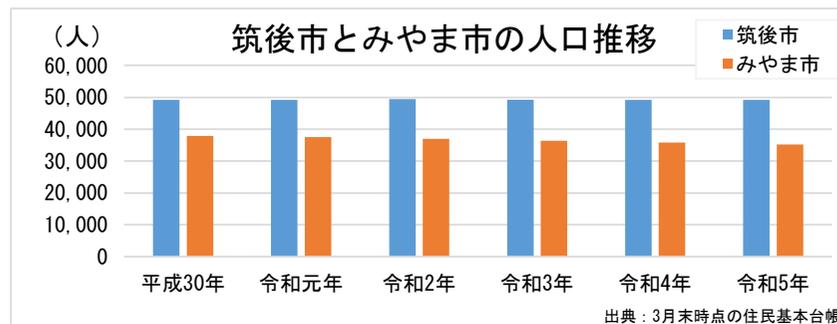
- ◆ 矢部川の中流部に位置する県営「筑後広域公園」は、平成17年に供用以降、平成19年に中ノ島公園が編入、平成23年には九州新幹線「船小屋駅」の駅前広場が供用、令和2年にはみやま市側の「フィットネスエリア」が供用されるなど、多様なサービスが提供され続けている。国道209号より東側(矢部川上流側)においては、新たなエリア「環境学習エリア」として、河川区域も含めた空間に民間活力の導入による地域の活性化や観光振興の視点を取り入れた公園施設が計画されている。
- ◆ 熊本県熊本市から佐賀県鹿島市に至る高規格道路である「有明海沿岸道路」は、令和3年3月に大川東IC～大野島IC間(3.7km)が開通し福岡県区間(延長27.5km)が全線開通した。令和4年11月には大野島IC～諸富IC区間(1.7km)の開通により有明海沿岸道路で福岡県と佐賀県が繋がった。筑後市及びみやま市の人口は、近年横ばいとなっているものの、沿線地域との連携、交流促進、広域拠点とのアクセシビリティ向上による物流の効率化や(沿線地域には世界文化遺産や様々な観光資源が点在しており)観光客数の増加が期待できる。



県営 筑後広域公園「環境学習エリア」全体図  
(福岡県公園街路課 環境学習エリアサウンディング資料より)



有明海沿岸道路の開通状況



## 2. 事業の必要性 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]

### 2.2. 河川の利用状況

- ◆ 矢部川流域では、昭和61年から毎年10月第4日曜日に実施している「筑後川・矢部川河川美化ノーポイ運動」や流域活動団体や近隣小学校による「水生生物調査」等が実施されている。
- ◆ 矢部川中流部は、中ノ島公園周辺を中心に「釣り、水遊び、ピクニック」等で利用されているほか、筑後広域公園における「マラソン大会、花火大会」時は多くの観客で賑わっている。
- ◆ 矢部川下流部は、旧柳川城の内堀、外堀が今でも水路(掘割)として残っており、市民の憩いの場としてだけでなく、川下りのできる観光地として全国から多くの観光客が訪れている。また、河口部に位置する中島朝市通りでは、江戸時代から続く「中島朝市」が毎朝開催され、日本最大の干満差である有明海から採れた海の幸を買うため市内外からの買い物客で賑わっている。



ノーポイ運動  
[矢部川流域]



水生生物調査  
[矢部川流域]



釣り  
[中ノ島公園周辺]



ピクニック  
[中ノ島公園周辺]



マラソン大会  
[筑後広域公園]



花火大会  
[筑後広域公園]



柳川川下り  
[柳川市]



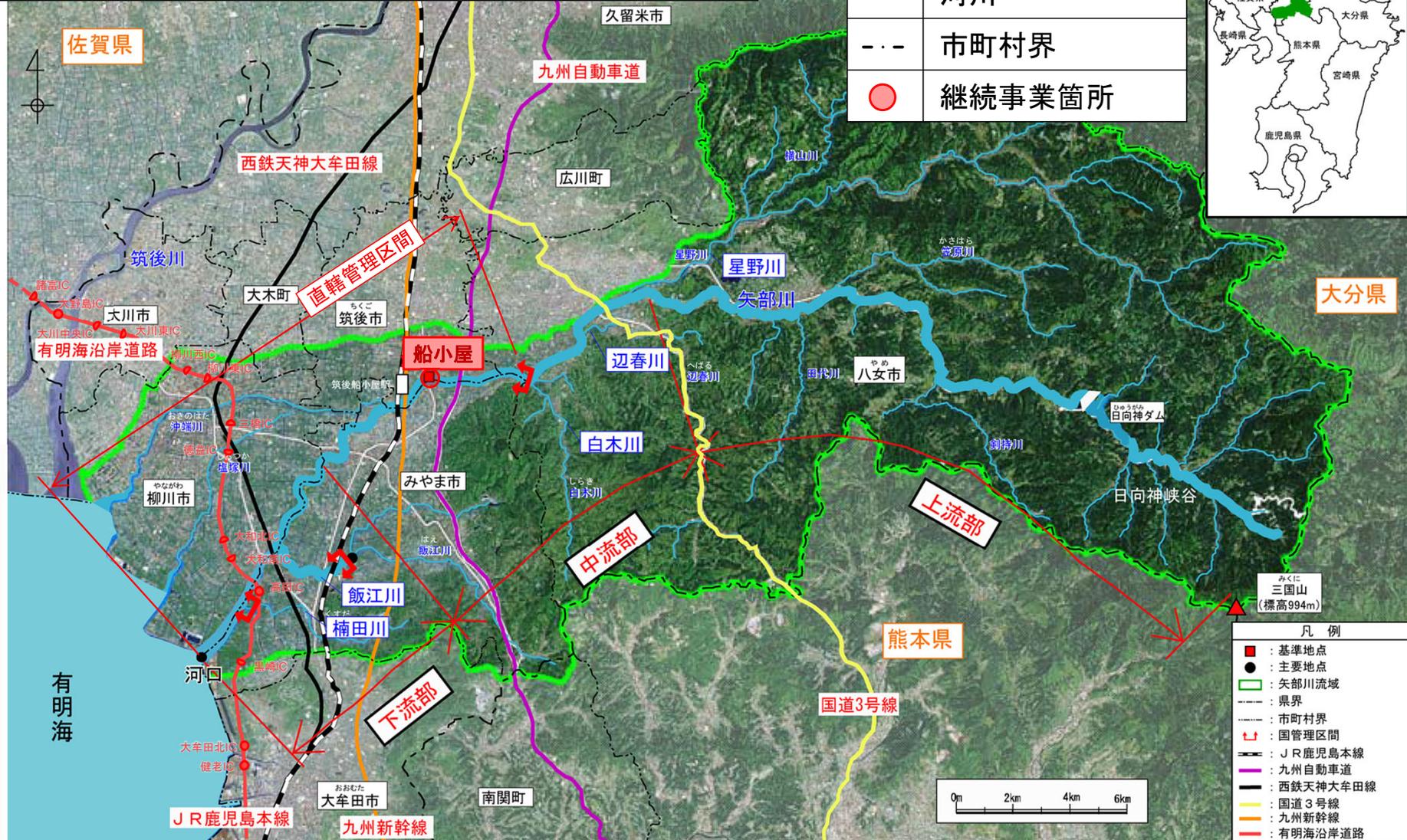
中島朝市  
[柳川市]

# 2. 事業の必要性 [事業の進捗状況]

## 2.3. 事業の概要

区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	船小屋地区	令和元年度～令和10年度	継続箇所
矢部川総合水系環境整備事業		令和元年度～令和10年度	

凡例	
	流域界
	河川
	市町村界
	継続事業箇所



## 2. 事業の必要性〔事業の進捗状況〕

### 2.4. 事業の進捗状況（継続箇所：船小屋地区（水辺整備））

#### 1) 事業の必要性

- ◆ かつて水浴場として多くの人々で賑わった中ノ島公園には、夏場も人が少ない状態となっている。
- ◆ 矢部川沿いには、船小屋温泉郷や整備中の県営「筑後広域公園」、川の駅船小屋恋ぼたる等、堤内には魅力ある施設が集中し個別施設で賑わいを見せているものの、アクセスに支障のある堤防等で分断されており、堤内外が一体となった賑わいとなっていない。
- ◆ 河川空間においても、矢部川から中之島公園へのアクセス路が整備されておらず、来訪者の安全な通行を妨げている。



船小屋地区右岸側  
（県営「筑後広域公園」側の状況）

県営「筑後広域公園」から矢部川へは、急な堤防がアクセスを妨げ、矢部川の水辺と連動した利活用のできる空間になっていない。



船小屋地区右岸側  
（川表堤防の状況）

県営「筑後広域公園」側の矢部川堤防から水際までは高低差があり、かつ、水際に下りる階段等が少ないため、公園側から矢部川へ観光客を呼び込めていない。



船小屋地区右岸側  
（水際の状況）



船小屋地区左岸側  
（矢部川の状況）

中之島公園へのアクセス路が整備されておらず、来訪者の安全な通行を妨げている。

## 2. 事業の必要性〔事業の進捗状況〕

### 2) 事業の概要・目的

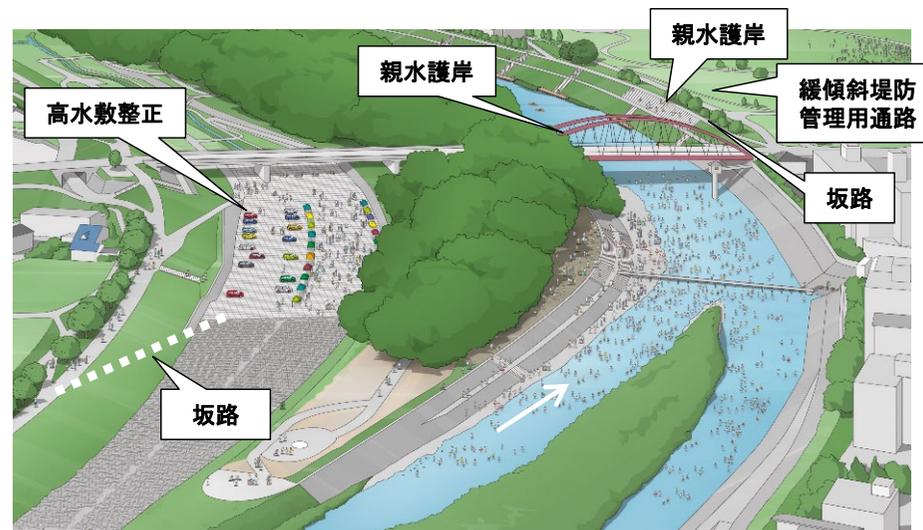
- ◆ 筑後広域公園等の既存インフラ・イベントと連携した水辺整備を行うことにより、昭和30年頃のかつての賑わいの中心であった船小屋地区の中ノ島公園を中心とした水辺の賑わいを取り戻すとともに地域活性化に貢献するため、管理用通路、親水護岸、坂路、高水敷改正、緩傾斜堤防の整備を実施する。

#### 【概要（当初計画）】

位置	矢部川 14k600 ~ 15k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、親水護岸、坂路、高水敷改正、緩傾斜堤防
事業費	7.9億円
整備完了年	令和5年度
事業期間	令和元年度～令和10年度

#### 【工程表（当初計画）】

工種	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
高水敷改正	■	■								
坂路			■		■					
親水護岸			■	■	■					
緩傾斜堤防、管理用通路		■	■	■						
測量設計等	■	■	■	■						
モニタリング調査等						■	■	■	■	■



親水護岸を整備し、矢部川の対岸や中ノ島公園をゆっくり眺めることができ、憩いの空間を創出する。



「筑後広域公園」側の堤防を緩やかにし、階段を設置することで、公園と河川の行き来をしやすくする。

## 2. 事業の必要性〔事業の進捗状況〕

### 3) 事業の現状

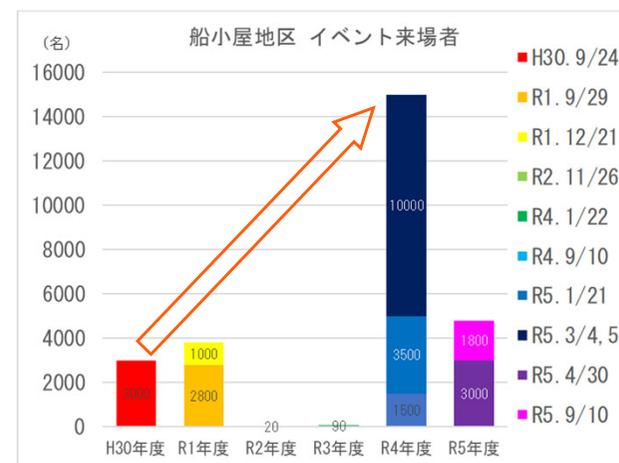
- ◆ 令和元年度に事業に着手し、令和4年度に整備が完了し、現在モニタリング中である。
- ◆ 高水敷整正及び親水護岸等の整備により、安全で多様な水辺の利用が可能となったことから、子ども達の環境学習や継続的な地域の活性化に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上を図ることが可能となっている。



放水路の高水敷は雑草が繁茂し、一部の場所が凸凹しているため、安全な河川の利用ができない状況だった。



高水敷を整正し、安心してマルシェ等ができる多目的広場として、地域のイベントに活用し、憩いの場として賑わいを創出している。整備が行われることにより、イベントが活発化した。



筑後広域公園等からの動線及び水際部へ動線が分断され、使用されていない状況だった。



親水護岸等の整備により、水辺の景色を楽しみながら散策・休憩ができる場を創出している。



# 2. 事業の必要性 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]

## 4) 地域の推進体制①

- ◆ 筑後市及びみやま市との意見交換を踏まえ、平成30年2月に地元関係者、筑後市、みやま市、福岡県、国土交通省で構成される「矢部川船小屋地区かわまちづくり協議会」が発足し、船小屋地区の整備プランや整備後の維持管理・利活用等について活発な議論を行い、「かわまちづくり計画」が登録※された。

※「船小屋地区かわまちづくり計画」は、平成23年度に登録されたが平成24年九州北部九州豪雨後に中断、平成30年より地元協議を行い平成31年3月に変更登録された。

- ◆ 実践組織となる「船小屋地区かわまちづくりワーキング」を立上げ、整備予定箇所の現地確認や整備の具体検討、計画の妥当性を確認するための社会実験の企画・運営・検証を行うなど、整備内容や利活用・維持管理計画等について活発な議論を行っている。
- ◆ 整備完了後はみやま市、筑後市及び地域住民により日常的な草刈りや清掃等の維持管理が行われており、地域の協力体制の下、今後も継続した維持管理が見込まれている。



協議会における事業進捗等の確認



WGにおける意見交換



WGメンバーとの現地確認



地域住民と活動団体による清掃活動

### 組織体制

所 属	協議会	WG
船小屋鉱泉保存会	○	
九州芸文館	○	○
川の駅船小屋恋ぼたる	○	○
水洗校区コミュニティ協議会	○	
筑後市観光協会	○	○
筑後商工会議所	○	○
筑後青年会議所	○	○
八女県土整備事務所 都市施設整備課	○	
筑後市 水路課	○	○
みやま市本郷校区	○	
みやま市水上校区	○	
長田地域振興会	○	
みやま市観光協会	○	○
みやま市商工会	○	○
山門青年会議所	○	○
山門青年会議所	○	○
矢部川くすべプロジェクト実行委員会	○	○
南筑後県土整備事務所 都市施設整備課	○	
みやま市 建設都市部	○	○
国土交通省 筑後川河川事務所	○	○

協議会の役割:承認組織(社会実験、整備、維持管理)

WGの役割:実践組織(社会実験の企画運営、整備内容の検討、維持管理の検討)

### 開催実績

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
協議会	協 第1回 第2回	協 第3回 第5回	協 第6回	協 第7回 第8回	協 第9回	協 第10回	協 第11回
ワーキング		WG 第1回 第7回	WG 第8回 第15回	WG 第16回 第19回	WG 第20回 第26回	WG 第27回 第36回	WG 第37回 第39回
社会実験		実 1回	実 2回	実 1回	実 開催直近で緊急事態宣言中止	実 2回	実 1回
環境整備		整備及び利活用内容の具体化	活用内容の具体化	施工(放水路)	測量	設計	利活用の検討
かわまちづくり支援制度への申請		かわまちづくり登録					モニタリング(R5~R9)

# 2. 事業の必要性 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]

## 4) 地域の推進体制②

- ・令和元年 12月21日に、矢部川船小屋地区の利活用に係る社会実験として、筑後市・みやま市の園児(約650名)等に描いていただいた紙袋によるライトアップ、ワークショップ(缶バッジ作り、くすべえのふわふわ、お絵描き)、屋台村を実施。
- ・「矢部川船小屋地区かわまちづくり」協議会等を中心に、社会実験の内容を企画。前回の経験を活かし、地域に協賛を呼びかけることで経費を削減。
- ・初めての“夜”のイベントであったが延べ約1,000人以上の方が来場。

- ・令和5年1月21日(土)11:00~16:00に、賑わいづくりの社会実験「くすべえの森わいわいマルシェ!」を実施。
- ・筑後市・みやま市の民間事業者、観光協会、かわまち実行委員、等を中心に、社会実験の内容を企画。「矢部川船小屋地区かわまちづくり」協議会、出店者の方々を中心に、企画・運営を行い、飲食・雑貨販売やワークショップを実施。約3500人の方が来場。



- ・令和4年1月22日(土)、船小屋地区放水路にて、放水路完成の周知を目的に、コロナ禍でも実施できる社会実験として「ドライブインシアター」を実施。
- ・来場者は事前予約いただいた31台とし、当日の来場者は90名。
- ・「矢部川船小屋地区かわまちづくり」協議会等を中心に事前準備、当時の運営を行い、放水路が賑わった。

- ・令和5年9月10日(日)11:00~15:00に、賑わいづくりの社会実験「明日に架ける橋～矢部川くすくす川遊び!」を実施(同内容の社会実験はR5年で4回目)。
- ・筑後市、みやま市の民間事業者、観光協会、かわまち実行委員を中心に、社会実験の内容を企画。資材やスタッフを極力地域で確保し、より自立的な活動となった。
- ・約1800人の方が来場。



# 3. 事業の進捗の見込み

## 3.1. 事業の見込み等（継続箇所：船小屋地区（水辺整備））

○船小屋地区では、地元関係者や自治体、国土交通省が参加する協議会やワーキングで活発な議論がされる中で、整備メニューを一部変更（左岸側坂路の削除）することとした。このため、事業費の削減及び事業期間が短縮した。

### 【事業期間短縮】

#### <新規採択時(H30)の概要、工程表>

位置	矢部川 14k600～15k800付近	工種	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
事業区分	水辺整備	高水敷整正	■	■								
主な整備内容	管理用通路、親水護岸、坂路、高水敷整正、緩傾斜堤防	坂路			■	■						
事業費	7.9億円	親水護岸		■	■	■						
整備完了年	令和5年度	緩傾斜堤防 管理用通路		■	■							
事業期間	令和元年度～令和10年度	測量設計等	■	■	■	■						
		モニタリング調査等						■	■	■	■	■



#### <今回評価時(R5)の概要、工程表>

位置	矢部川 14k600～15k800付近	工種	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
事業区分	水辺整備	高水敷整正	■	■							
主な整備内容	管理用通路、親水護岸、坂路、高水敷整正、緩傾斜堤防	坂路			■						
事業費	7.3億円	親水護岸		■	■						
整備完了年	令和4年度	緩傾斜堤防 管理用通路		■	■						
事業期間	令和元年度～令和9年度	測量設計等	■	■	■	■					
		モニタリング調査等						■	■	■	■



# 3. 事業の進捗の見込み

## (1) 事業の実施状況

◆事業名：矢部川総合水系環境整備事業（福岡県）

◆計画（整備内容）：水辺整備（船小屋地区）

管理用通路、親水護岸、坂路、高水敷整正、緩傾斜堤防、モニタリング調査等

◆総事業費：約7.3億円

◆整備期間：令和元年度から令和9年度

◆事業進捗率：86.4%（事業費ベース）

◆残事業費：約1.0億円

◆事業の進捗状況：船小屋地区は令和4年度に整備が完了し、令和5年度から供用開始している。

現在、モニタリングを実施中である。

## (2) 今後の事業展開

◆船小屋地区においては、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和元年度に事業に着手し、令和4年度に整備が完了した。令和5年度以降はモニタリング調査等を実施しており、令和9年度に完了予定である。

## (3) 今後の事業の進捗の見込み

◆船小屋地区では、平成30年2月より地元住民、地元自治体等で構成する「船小屋地区かわまちづくり協議会」を設立し、計画内容の協議が進められてきた。また、平成30年6月に実践組織である「船小屋地区かわまちづくりワーキング」を開催している。以降も整備の具体検討や、社会実験の企画・開催・検証が継続して実施されるなど、地域の協力体制が確立されており、今後も活発な利活用と地域住民を中心とした維持管理が見込まれる。

# 4. 事業の投資効果

## 4.1. 費用対効果分析（水系全体）

項目	前回評価時 (平成30年度)	今回評価時 (令和5年度)	変更理由
総事業費	約7.9億円 【水辺整備】 船小屋地区：約7.9億円	約7.3億円 【水辺整備】 船小屋地区：約7.3億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備メニューの変更による水辺整備事業の総事業費の削減及び予定完了年の前倒し。</li> <li>・現在価値化による更新</li> <li>・集計世帯数の更新による便益の変更</li> </ul>
事業完了年	令和10年度	令和9年度	
B/C	8.3	8.4	
B(便益)	64.0億円	72.4億円	
C(費用)	7.7億円	8.6億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

# 4. 事業の投資効果

## <費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	7.3億円	—	72.4億円	8.6億円	8.4
継続箇所	7.3億円	—	72.4億円	8.6億円	8.4
水辺整備	7.3億円	—			
船小屋地区	7.3億円	高水敷整正、坂路、緩傾斜堤防、 親水護岸、坂路、管理用通路			
残事業	1.0億円	モニタリング	10.4億円	0.9億円	11.7

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計対象 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
船小屋地区	平成30年度	2,000	308	半径10km圏内	102,729	320

# 4. 事業の投資効果

## 《効果名》

## 【効果の概要】

①便益の算出：約72.4億円

(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②地域のにぎわいの創出 : 地域の既存イベントや新たな水辺イベントの開催の場の提供による地域活動の増進

P8, 9, 10

③治水安全性の向上 : 河川利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P8

④良好な自然環境の保全 : 地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動  
河川を活用した環境学習

P8, 9

⑤費用対効果分析 (算定に用いた効果)

全体事業 (B/C) : 8.4

残事業 (B/C) : 11.7

# 5. コスト縮減や代替案立案等の可能性

## (1) 代替案の可能性の検討

- ◆ 船小屋地区の整備内容については、計画段階から「船小屋地区かわまちづくり協議会」及び「船小屋地区かわまちづくりワーキング」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

## (2) コスト縮減の方策

- ◆ 建設発生土の利用促進及び現地発生材の再利用によりコスト縮減を図った。
- ◆ 地域が主体となった草刈りを試行するなど、地域と協働の維持管理により、管理費の縮減が期待されている。
- ◆ 今後も新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。



地域による草刈り

## 6. 対応方針(原案)

- ◆ 筑後市は、将来像を「豊かな緑と都市の活力が共生し、未来に羽ばたくまち「ちくご」」とし、船小屋温泉郷を観光拠点として位置づけ、県南地域の広域交流拠点として一体的な整備を図っている。また、みやま市は、将来像を「人・水・緑が光り輝き夢ふくらむまち」とし、矢部川などの自然景観を市民との協働で保全しながら整備を行うこととしており、船小屋地区における安全に安心して利用できる水辺空間の整備のニーズが高まっている。このため、国土交通省では高水敷整正、管理用通路等の環境整備事業を行っている。
- ◆ 整備に対する地域の関心、ニーズは高く、船小屋地区では、平成30年2月より地元関係者、筑後市、みやま市、福岡県、国土交通省が参加する「矢部川船小屋地区かわまちづくり協議会」及び「ワーキング」において、船小屋地区の整備プランや整備後の維持管理・利活用等について活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、筑後市及びみやま市により実施するものとされ、現在地域による清掃等が進められている。  
このことから、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 事業進捗率は、約86.4%（約1.0億円／約7.3億円）であり、令和9年には事業完了予定である。
- ◆ 費用対効果（B/C）については、全体事業8.4、残事業11.7となっている。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。